

【特別研究】

糖尿病患者の自己管理行動とQOLの関連性

看護学科 市川美奈子

研究の目的

糖尿病患者が良好な血糖コントロールとQOLを保ちながら生活できる自己管理を教育支援するための示唆を得るために、自己管理行動とQOLの関連性を明らかにすること

研究方法

- ・糖尿病外来通院中の20歳以上の2型糖尿病患者にアンケート調査を実施
- ・調査内容: 属性(性別、年齢、罹病年数、仕事の有無、家族構成など)
自己管理行動(木下の糖尿病自己管理行動尺度22項目)
QOL(SF-36V2スタンダード版)

調査結果

- ・平均年齢61.0±11.7歳、男性109名、女性101名
- ・自己管理行動の実施度の平均を属性別に比較
→男女間で差があり、女性の方が実践度が高かった。
- ・男女別に自己管理行動22項目とQOL8項目の相関関係を分析
→男性は33項目、女性は13項目で弱い相関($r \leq 0.2$)が見られた。

まとめ

●今回の調査では、自己管理行動に男女間で差があったため、QOLとの関連性は男女別に検討した。

<男性の場合>

- ・自己管理行動の実践度が少ないが、実践できているとQOLは高い傾向にある

<女性の場合>

- ・男性より食習慣や生活習慣に関する自己管理行動は実践度が高いが、QOLとの関連は少ない
- ・特別な行事での食事療法の厳守は実践するほど普段のつきあいに関するQOLが低くなる傾向にある

今後の調査の方向性

糖尿病患者の治療の中心となる食事療法・運動療法・薬物療法も自己管理行動やQOLに大きく影響することが予想される。今後は症例数を増やし、今回分析できなかったこれらの療法内容の違いによる自己管理行動とQOLの関連性についても検討していく。